

山田昌弘『新平等社会』

1章 格差問題を考えるための三つの問い

要点のまとめ

A 格差拡大はあるのか

- 橘木俊詔: 1990年代から、所得のジニ係数が増大、所得配分における不平等度が高まったことを意味している
- 大竹文雄: 人口高齢化に伴い、所得格差が大きい高齢者の割合が増えたので、ジニ係数が高まっただけ

- 若年男性の所得のジニ係数はここ10年で上昇しているが、30代以上のジニ係数は横ばい、70代ではむしろ低下
- 20～80%比(所得が上から20%の人の所得と、80%の人の所得の比率)も、90年代に上昇したものの、2000年代には上昇がストップ
- 統計上、所得格差の拡大はないのに、なぜ格差感が大きくなったか？

○ 山田の回答：格差の「質」が変化した

近年、雇用状況の変化や家族の多様化に対応して、今までとは別のタイプの格差が生じ、社会問題として意識されるようになってきた(2章と4章で詳しく考察)

「日本において格差は拡大しているか」という問いは「どこにどのような格差が新たに生じたか」という問いに置き換えるべき

B 格差はよいものか

- 経済的格差に限っても、収入、生活水準、資産など、様々なレベルで格差は存在している
- 教育レベルや潜在的能力、人脈、教養なども、人的資本、社会関係資本、文化資本という形で、格差と考えることができる
- 意欲や希望、魅力というように、その人に備わった性格、感情なども格差の対象になる

- 格差肯定論者
格差がなければ人間やる気が起きない
→ 格差を放置しろ
- 格差否定論者
人間は平等であらねばならない
→ 格差を全て解消しろ

- 人間が自由に行動する結果として格差が生じるなら、格差の出現は避けられない
- しかし、結果として出現した格差が社会的に望ましくなければ、生じた格差を是正するように社会全体で対処しなくてはならない
- そうしなければ自由な活動の前提である社会の秩序が保てなくなり、かえって自由な活動に対する反感が増すだろう

C 格差拡大の原因は何か

- 小泉内閣の経済改革のせいかな？
- 一時的な経済的不況のせいかな？

- 山田の見解：そのどちらでもない

現在日本に進行している格差拡大現象は「構造的かつ世界的」な現象

そう考える二つの理由は・・・

- 1. 日本では1997年の金融危機を契機に、経済・社会の構造が大きく変化、新たなタイプの格差が出現、格差拡大の傾向は今日まで続いている

- 2. 格差拡大は、世界的な傾向：欧米の先進諸国でここ20年の間に格差が拡大
 - ・ 労働者の収入差が拡大
 - ・ 若者の雇用の不安定化

- その根底にあるのは経済の領域、家族の領域における自由(選択肢)の拡大
- 技術革新と意識変化が、結果的に新たな格差を出現させている(4章で詳しく考察)
- 所得の格差拡大を食い止めることはできなくとも、その結果を緩和し、社会秩序の悪化を食い止めることは可能(対処策は5章で詳しく述べる)